

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-238375

(43)Date of publication of application : 27.08.2003

---

(51)Int.Cl.

A61K 7/46  
A61K 7/00  
A61K 7/027  
A61K 7/075  
A61K 7/50

---

(21)Application number : 2002-031834

(71)Applicant : KANEBO LTD  
EZAKI GLICO CO LTD

(22)Date of filing : 08.02.2002

(72)Inventor : OKUI MIHO  
KOMAKI RYOICHI  
KURODA AKIHIRO  
TAKABA TAKESHI  
TAKADA HIROKI  
KURIKI TAKASHI

---

(54) PERFUME COMPOSITION AND COSMETIC

(57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a perfume composition having excellent persistency of fragrance (perfume retention) and stability and a cosmetic having the effects.

**SOLUTION:** The perfume composition is obtained by impregnating perfume into a glucan which has an internally branched cyclic structural part and an externally branched structural part and 50-5,000 polymerization degree in which the internally branched cyclic structural part is a cyclic structural part composed of  $\alpha$ -1,4-glucoside bond and  $\alpha$ -1,6-glucoside bond and the externally branched structural part is a noncyclic structural part bonded to the internally branched cyclic structural part. The cosmetic contains the perfume composition.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-238375

(P2003-238375A)

(43)公開日 平成15年8月27日(2003.8.27)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	ページ* (参考)
A 6 1 K	7/46	A 6 1 K	7/46
	7/00		7/00
	7/027		7/027
	7/075		7/075
	7/50		7/50
		審査請求	未請求
		請求項の数	4
		OL	(全 8 頁)

(21)出願番号 特願2002-31834(P2002-31834)

(22)出願日 平成14年2月8日(2002.2.8)

(71)出願人 000000952

カネボウ株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(71)出願人 000000228

江崎グリコ株式会社

大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目6番5号

(72)発明者 奥井 美保

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ

ネボウ株式会社化粧品研究所内

(72)発明者 駒木 亮一

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ

ネボウ株式会社化粧品研究所内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 香料組成物及び化粧品

(57)【要約】

【課題】香りの持続性(残香性)、安定性に優れた香料組成物、並びに該効果を有する化粧料を提供する。

【解決手段】内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が50から5000の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンに、香料を含浸させたことを特徴とする香料組成物、並びに該香料組成物を含有することを特徴とする化粧料。

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が 50 から 5000 の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは  $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と  $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンに、香料を含浸させたことを特徴とする香料組成物。

【請求項 2】 請求項 1 記載の香料組成物を含有すること 10 を特徴とする化粧料。

【請求項 3】 内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が 50 から 5000 の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは  $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と  $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンが、分子量 10000 以下の成分を除去してあることを特徴とする請求項 1 記載の香料組成物。

【請求項 4】 請求項 3 記載の香料組成物を含有すること 20 を特徴とする化粧料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、香りの持続性（残香性）と安定性に優れた香料組成物に関するものであり、さらに詳しくは、内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が 50 から 5000 の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは  $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と  $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカン（以下、未精製のものを「高度分岐環状デキストリン」、精製したものを「精製高度分岐環状デキストリン」と呼ぶ）に香料を含浸させたことを特徴とする香料組成物及び該香料組成物を含有する化粧料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】一般に化粧水、クリーム等の基礎化粧料、口紅、ファンデーション等のメーキャップ化粧料、シャンプー・リンス、スタイリング剤等のヘアケア化粧料、ボディソープやスリミング剤等のボディ関連の化粧料には、化粧品の魅力的イメージを作り上げたり、使用中の心地良さを付与したり、また原料臭をマスキングするために香料組成物が配合されている。また、近年では香りの持つ生理的・心理的作用に関する研究が進んでおり、香りをまとうことにより心や身体に働きかけ、外面だけではなく心理面、生理面に化粧の効果を与えていくことも提唱されている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の香料組成物及びそれを含有した化粧料は肌への塗布時は香気が楽しめるが、短時間で香料が揮散してしまうことがあり、香りの持続性（残香性）に問題があった。中でも清涼感、みずみずしさをもつライトな香りやフレッシュな香りは特に持続性が期待できない。香りの持続性を持たせるためには、香料成分自体を調整する必要があり、香りの持続力を目的として香料を高配合すると色やけを起こしたり、高温安定性が悪くなる等の欠点を有していた。また、一般的に香料組成物及びそれを含有した化粧料は時間経過で各々の香料の揮発時間の差や空気中の酸素や製品基材等との諸反応によって香りを変化してしまうこともあり、一定の香りを長期間持続させることが難しいという問題があった。すなわち、本発明の目的は、香りの持続性（残香性）、安定性に優れた香料組成物、並びに該効果を有する化粧料を提供することにある。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、このような事情に鑑み、上記のような欠点を解決し、香りの持続性（残香性）かつ安定性に優れた香料組成物及び化粧料を得るため研究を重ねた結果、高度分岐環状デキストリンに香料を含浸させることにより、上記の課題を解決できることを見出した。

【0005】すなわち、本発明の請求項 1 は、内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が 50 から 5000 の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは  $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と  $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンに、香料を含浸させたことを特徴とする香料組成物である。

【0006】本発明の請求項 2 は、請求項 1 記載の香料組成物を含有することを特徴とする化粧料である。

【0007】本発明の請求項 3 は、内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が 50 から 5000 の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは  $\alpha$ -1, 4-グルコシド結合と  $\alpha$ -1, 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンが、分子量 10000 以下の成分を除去してあることを特徴とする請求項 1 記載の香料組成物。

【0008】本発明の請求項 4 は、請求項 3 記載の香料組成物を含有することを特徴とする化粧料である。

## 【0009】

【発明の実施の形態】本発明で用いられる高度分岐環状デキストリンは、特開平 8-134104 号公報記載の方法に従い、1, 4- $\alpha$ -グルカン分岐酵素（枝作り酵素、Q 酵素）、4- $\alpha$ -グルカノトランスフェラーゼ

(D酵素、アマロマルターゼ、不均化酵素)、サイクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ (CGTase) 等の枝作り酵素を澱粉(ワキシコーンスターチが好ましい)に作用させて得られる。これらの酵素は、内分岐環状構造部分と外分岐構造部分とを有する、重合度が50から5000の範囲にあるグルカンであって、ここで、内分岐環状構造部分とは $\alpha-1$ , 4-グルコシド結合と $\alpha-1$ , 6-グルコシド結合とで形成される環状構造部分であり、そして外分岐構造部分とは、該内分岐環状構造部分に結合した非環状構造部分であるグルカンを生成する能力を持っている。本発明では、酵素としては特に $\alpha-1$ , 4-グルカン分岐酵素 (EC 2. 4. 1. 18) を用いることが好ましい。本発明で用いる高度分岐環状デキストリンとしては、江崎グリコ (株) のクラスターデキストリン (商標) が入手容易であり、量的な供給安定性に優れることから好ましい。

【0010】また、本発明請求項3及び4で用いられる高度分岐環状デキストリンは、上記高度分岐環状デキストリンに入っている低分子成分を除去するために、これを精製して得られた精製高度分岐環状デキストリンである。高度分岐環状デキストリンの精製方法としては、限外ろ過膜を用いる方法、ゲルろ過を行う方法が挙げられるが、工業的に容易な限外ろ過膜を用いることが好ましい。本発明では分子量10000以下、より好ましくは30000以下の成分を除去し、これらの成分が1.0質量%以下になるように精製することが好ましい。この操作により、例えばグルコースなど、製剤の高温での安定性に影響を与える低分子成分が除去されるため、製品の安定性をより高めることができる。

【0011】本発明の香料組成物、または化粧料に配合する香料組成物において、香料を高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンに含浸させたものを化粧料に用いて配合することが、特に長期間における香りの持続性のために必要である。本発明の香料組成物で用いる香料含浸高度分岐環状デキストリン、香料含浸精製高度分岐環状デキストリンは以下の方法で得ることができる。本発明はこれに限定されるものではない。容器に高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンを一定量取り、攪拌させながら香料を少しずつ滴下させ、十分に攪拌した後、香料含浸高度分岐環状デキストリンまたは香料含浸精製高度分岐環状デキストリンを得る。または、高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンを水、アルコール等の溶媒に溶解した液に香料を添加し、必要によってはタンパク質や乳化剤等を添加し、その後通常の乾燥方法にて溶媒を除去し、香料含浸高度分岐環状デキストリンまたは香料含浸精製高度分岐環状デキストリンを得ることができる。本発明はこれに限定されるものではない。高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンに含浸させる香料の割合としては、含浸さ

せようとする高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンに対し1~50質量%が好ましく、特に好ましくは5~30質量%である。

【0012】本発明に用いられる香料は、特に限定されるものではなく、通常一般に用いられる香料のうち単独または2種以上混合して使用できる。その配合量は香料組成物中、好ましくは0.1~90質量%、特に好ましくは10~70質量%が配合される。

【0013】本発明の化粧料における上記香料組成物の配合量は、化粧料の総量に対して、好ましくは0.0001~10質量%、特に好ましくは0.001~5質量%である。

【0014】本発明の香料組成物には、高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンに含浸させた香料組成物以外に、高度分岐環状デキストリンまたは精製高度分岐環状デキストリンに含浸させたものではない香料、エンハンサー、酸化防止剤、保留剤、紫外線吸収剤、酸素吸収剤、金属封鎖剤、溶媒等を本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合して香料組成物とすることもできる。また、本発明の化粧料においても上記香料組成物以外に、その効果を損なわない範囲で必要に応じて他の成分、例えばアルコール、保留剤、油分、保湿剤、界面活性剤、湿潤剤、油脂、炭化水素、脂肪酸、水溶性高分子、紫外線吸収剤、酸化防止剤、防腐剤、薬剤、色剤、その他一般に化粧品業界で汎用されている成分を配合することが出来る。本発明に係る香料組成物、それを含有する化粧料の剤型は任意であり、溶解系、可溶化系、乳液・クリーム等の乳化系、分散液、ゲル状、粉末等の固形状、シート等の剤型をとることができる。

【0015】本発明の化粧料としては、化粧水、クリーム等の基礎化粧料、口紅、ファンデーション等のメーキャップ化粧料、シャンプー・リンス、スタイリング剤等のヘアケア化粧料、ボディソープやスリミング剤等のボディ化粧料、入浴剤等が挙げられる。

#### 【0016】

【実施例】次に、実施例によって本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は質量%である。本発明の各種化粧料に配合される香料組成物(調合香料)としての香料を含浸させた精製高度分岐環状デキストリン(以後、「香料含浸高度分岐環状デキストリン」と呼ぶ)は以下の方法で製造した。容器に下記の方法で製造した精製高度分岐環状デキストリンを一定量取り、攪拌させながら下記表1~3の各調合香料(精製高度分岐環状デキストリンに対し15質量%)を少しずつ滴下させ、十分に攪拌した後、香料含浸高度分岐環状デキストリンを得た。

【0017】[高度分岐環状デキストリンの製造] 高度分岐環状デキストリンの製造は、基本的に特開平8-134104に開示される方法にしたがって以下のように行った。市販のワキシコーンスターチ5kgを25リ

ットルのリン酸ナトリウム緩衝液 (pH 7 程度) に懸濁し、加熱糊化させた。約 50℃ まで放冷後、2, 000, 000 単位の枝作り酵素 (EC. 2. 4. 1. 18) を作用させた。反応終了後、加熱により枝作り酵素を失活させて除去し、脱塩、脱色後、乾燥して、粉末の高度分岐環状デキストリン約 4 kg を得た。枝作り酵素は、バチルスステアロサーモフィラス TRBE 14 株 (寄託番号 P-13916) の菌体抽出液より精製したものをを用いた。これを限外ろ過膜を用いて分子量 30000 以下の成分を除去し、精製高度分岐環状デキストリンを得た。この\*10

\* 工程により、精製前に含まれていたグルコース量が 4.0 質量% から 0.02 質量% に減少し、分子量 30000 以下のものの合計が 10 質量% から 0.5 質量% 以下に減少していた。本発明では、これをさらにスプレードライヤーを用いて噴霧乾燥したものを使用した。

【0018】なお、以下の実施例において用いた調合香料 (調合香料 A, B, C) の組成を表 1 ~ 3 に示す。

【0019】

【表 1】

調合香料A		
香料成分名	配合量	
ベルガモットオイル	3	
シス3ヘキセノール 10%DPG	1	
リナロール	2	
ベンジルアセテート	5	
ローズオイル(天然香料)	0.1	
ゲラニオール	1	
ネロール	0.5	
L-シトロネロール	2.5	
1-(2,6,8-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	0.2	別名: ベータダマスコン
フェニルエチルアルコール	5	
シスジャスモン 10%DPG	1	
メチルシハイドロジャスモネート	12	
アルファヘキシルシンナミックアルデヒド	6	
2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシフェニル)-プロパノール	1	別名: ヘリオナール
4-(4-ヒドロキシ-4-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシルアルデヒド	10	
ガンマデカラクトン	0.1	
ガンマウンデカラクトン	0.3	
オイゲノール	0.8	
5-(2,6,8-トリメチル-2-シクロヘキセン)-3-メチル-3-ブテン-2-オン	2	別名: アルファイソメチルヨノン
3α,8,8,9α-テトラメチルデカヒドロナフタ[2,1-B]フラン	0.2	別名: アンプロキシサン
ヘリオトリピン	0.4	
4-アセチルトリメチル-6,8α-エタノ-1,2,3,5,6,7,8,8α-オクタヒドロナフタレン	1.5	別名: ベルトフィックスクール
シス3ヘキセニルサリシレート	1	
シクロペンタデカノリッド	5	
エチレンブラシレート	5	
サンダルウッドオイル(天然香料)	2	
DPG	残量	
計	100	

【0020】

※ ※ 【表 2】

調合香料B		
香料成分名	配合量	
ベルガモットオイル	2	
ベンジルアセテート	5	
ローズオイル(天然香料)	0.1	
ジャスミンアブソリュート(天然香料)	0.1	
オリスコングリート 10%DPG(天然香料)	0.5	
ゲラニオール	1	
ネロール	0.5	
L-シトロネロール	2.5	
1-(2,6,8-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	0.2	別名: ベータダマスコン
フェニルエチルアルコール	5	
シスジャスモン 10%DPG	1	
メチルシハイドロジャスモネート	12	
アルファヘキシルシンナミックアルデヒド	6	
2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシフェニル)-プロパノール	1	別名: ヘリオナール
4-(4-ヒドロキシ-4-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシルアルデヒド	10	別名: リラール
ガンマデカラクトン	0.1	
ガンマウンデカラクトン	0.3	
オイゲノール	0.8	
5-(2,6,8-トリメチル-2-シクロヘキセン)-3-メチル-3-ブテン-2-オン	2	別名: アルファイソメチルヨノン
3α,8,8,9α-テトラメチルデカヒドロナフタ[2,1-B]フラン	0.2	別名: アンプロキシサン
ヘリオトリピン	0.4	
4-アセチルトリメチル-6,8α-エタノ-1,2,3,5,6,7,8,8α-オクタヒドロナフタレン	1.5	別名: ベルトフィックスクール
シス3ヘキセニルサリシレート	1	
シクロペンタデカノリッド	5	
サンダルウッドオイル(天然香料)	2	
4-(4-ヒドロキシ-4-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシルアルデヒド	0.5	別名: ラズベリーケトン10%
DPG	残量	
計	100	

【0021】

【表 3】

調合香料C 香料成分名	配合量	
ベルガモットオイル	2	
ベンジルアセテート	5	
エチルアセテート	2	
イソアミルアセテート	0.1	
ローズオイル(天然香料)	0.1	
ジャスミンアブソリュート(天然香料)	0.1	
グラニオール	1	
ネロール	0.5	
レーシトロネロール	2.5	
1-(2,6-トリメチル-1-シクロヘキセン-1-イル)-2-ブテン-1-オン	0.2	別名:ペータダマスコン
フェニルエチルアルコール	5	
シスジャスモン 10%DPG	1	
メチルジハイドロジャスモネート	12	
アルファヘキシルシナミックアルデヒド	8	
2-メチル-3-(3,4-メチレンジオキシフェニル)プロパノール	1	別名:ヘリオナール
4-(4-ヒドロキシ-4-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシルアルデヒド	10	別名:リラル
ガンマデカラクトン	0.1	
ガンマウンデカラクトン	0.3	
オイゲノール	0.8	
5-(2,6-トリメチル-2-シクロヘキセン)-3-メチル-3-ブテン-2-オン	2	別名:アルファイソメチン
3 $\alpha$ ,6,8 $\alpha$ -トリメチル-2,4,6,8-テトラヒド[2,1-B]フラン	0.2	別名:アンプロキサン
ヘリオトリピン	0.4	
4-アセチル-2-メチル-6,8 $\alpha$ -エタノ-1,2,3,5,6,7,8,8 $\alpha$ -オクタヒドロナフタレン	1.5	別名:ベルトフィックスクール
シス3ヘキセニルサリシレート	1	
シクロペンタデカリッド	5	
エチレンブラスレート	5	
DPG	残量	
計	64.8	

【0022】また、以下の実施例における各化粧料の組成を表4～9に示す。

【0023】実施例1、2 比較例1 (シャンプー組成物)

常法に従って、調合香料A含浸透高度分岐環状デキスト\*

\*リンを用い表4に示す処方のシャンプー組成物を調製した。また、比較例として単なる調合香料Aを配合したものを調製した。

【0024】

【表4】

成分名	配合量
シヤンブー組成物ベイス部	
N-ヤシ油脂肪酸アルシル-レーグルタミン酸トリエタノールアミン	30
ラウリン酸アミドプロピルベタイン液	15
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	3
ポリオキシエチレン牛脂アルキルヒドロキシミリスチレンエーテル	3
カチオン化セルローズ	0.4
水酸化ナトリウム	0.4
1,3-ブチレングリコール	2
防腐剤	適量
精製水	残量
香料及び香料含浸透高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0025】実施例3、4 比較例2 (ボディシャンプー組成物)

常法に従って、調合香料A含浸高度分岐環状デキストリ

ンを用い表5に示す処方のシャンプー組成物を調製し ※

※た。また、比較例として単なる調合香料Aを配合したものを調製した。

【0026】

【表5】

成分名	配合量
ボディシャンプー組成物ベイス部	
N-ラウリル-レーグルタミン酸トリエタノールアミン	6
N-ラウリルメチルタウリンナトリウム	3
ラウリン酸トリエタノールアミン	10
ミリスチン酸トリエタノールアミン	10
ラウリルイミダゾリニウムベタイン	5
ラウロイルジエタノールアミド	5
プロピレングリコール	7
防腐剤	適量
キレート剤	適量
精製水	残量
香料及び香料含浸透高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0027】実施例5及び比較例3 (クリーム組成物)

常法に従って、調合香料B含浸高度分岐環状デキストリンを用い表6に示す処方のクリーム組成物を調製した。

また、比較例として単なる調合香料Bを配合したものを

調製した。

【0028】

【表6】

成分名	配合量
流動パラフィン	15
トリ-2-エチルヘキセン酸グリセリド	5
ステアリン酸	2
セタノール	3
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E. O.)	3
N-ステアロイル-L-グルタミン酸ナトリウム	1
カルボキシビニルポリマー	0.1
防腐剤	適量
精製水	残量
香料及び香料含浸高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0029】実施例6及び比較例4（ミルク組成物） 10\* 製した。

常法に従って、調合香料B含浸高度分岐環状デキストリンを用い表7に示す処方のミルク組成物を調製した。また、比較例として単なる調合香料Bを配合したものを調\*

【0030】

【表7】

成分名	配合量
ステアリン酸	1
イソステアリン酸コレステリル	2
ホホバ油	4
スクワラン	8
セスキオレイン酸ソルピタン	0.8
モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルピタン(20E. O.)	1.2
1,3-ブチレンジグリコール	5
レアルギニン	0.4
カルボキシビニルポリマー	0.2
防腐剤	適量
精製水	残量
香料及び香料含浸高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0031】実施例7及び比較例5（固形ファンデーション組成物）

常法に従って、調合香料C含浸高度分岐環状デキストリンを用い表8に示す処方の固形ファンデーション組成物を調製した。また、比較例として単なる調合香料Cを配合したものを調製した。

【0032】

【表8】

成分名	配合量
シリコーン被覆マイカ	42
シリコーン被覆タルク	18.5
ナイロン末	10
シリコーン被覆酸化チタン	10
シリコーン被覆酸化チタン(微粒子)	2.5
シリコーン被覆ベンガラ	3
シリコーン被覆黄酸化鉄	2.5
シリコーン被覆黒酸化鉄	0.5
メチルポリシロキサン	8
スクワラン	2
硬化油	1
防腐剤	適量
香料及び香料含浸高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0033】実施例8及び比較例6（リップスティック組成物）

常法に従って、調合香料C含浸高度分岐環状デキストリンを用い表9に示す処方のリップスティック組成物を調製した。また、比較例として単なる調合香料Cを配合したものを調製した。

【0034】

【表9】

成分名	配合量
カルナウバロウ	4
セレシン	10
マイクロクリスタリンワックス	8
キャンデリラロウ	7
ラノリン	10
オリーブ油	29
ホホバ油	18
リンゴ酸ジイソステアリル	8
酸化チタン	4
赤色201号	0.6
赤色202号	1.2
黄色4号(アルミニウムレーキ)	0.2
香料及び香料含浸高度分岐環状デキストリン	適量
計	100

【0035】上記の各実施例及び各比較例の評価結果に先立ち、香りの持続性（残香性）・安定性についての評価方法を下記に示す。

【0036】〔評価方法〕

(1) 香りの持続性（残香性）

40 専門パネル10名を用いて、香りの持続性（残香性）のテストを行った。各試料を各々の使用方法に基づき、パネルに使用してもらい（皮膚に塗布、シャンプー・ボディシャンプーについては洗い流し後）、直後、30分後、1時間後、3時間後の香りの強さを5段階評価（+2, +1, 0, -1, -2）で評価し、各試料毎の平均値を下記評価基準に基づいて示した。BR>

+1以上+2以下 : ◎

0以上 +1未満 : ○

-1以上 0未満 : △

50 -2以上-1未満 : ×

【0037】(2) 香りの安定性専門パネル10名を用いて、香りの安定性のテストを行った。各試料を室温温度条件下で保存し、直後、1ヶ月後、半年後、1年後、各試料を使用した。その使用中の香りの強さと質について作成直後の試料と比較して官能評価を行った。

変化なし : ◎  
ほとんど変化なし : ○  
変化あり : △  
大きく変化あり : ×

【0038】 [評価結果] 実施例1～8及び比較例1～6の評価結果を表10に示す。

【0039】

【表10】

	実施例1	実施例2	比較例1	実施例3	実施例4	比較例2	実施例5	実施例6	実施例7	比較例3	比較例4	比較例5	比較例6
成分配合量	99.3	99.5	99.5	99.1	99.4	99.4	99.4	99.9	99.9	99.95	99.95	99.95	99.95
リッブスデイズ組成物ベース部	0.2	-	0.5	0.3	-	-	-	-	-	0.05	0.05	-	0.05
調合香料A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
調合香料B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
調合香料C	0.5	0.5	-	0.8	0.6	0.6	-	-	-	-	-	-	-
調合香料A含浸高度分岐環状デキストリン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
調合香料B含浸高度分岐環状デキストリン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
調合香料C含浸高度分岐環状デキストリン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香りの持続性	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎
直後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1ヶ月後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
半年後	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1年後	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	×
香りの安定性	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	×

【0040】

【発明の効果】以上のことから、本発明は、内分岐環状構造部分と外分岐環状構造部分とを有する、重合度が50以上のグルカン、またはかつ分子量10000以下の低分子量成分を除去した上記グルカンに香料を含浸させ



たことを特徴とする香料組成物、並びにそれを含有する化粧料が、香りの持続性（残香性）、安定性に優れてい\*

\* ることは明らかである。

---

フロントページの続き

(72)発明者 黒田 章裕

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ  
ネボウ株式会社化粧品研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA122 AB032 AB232 AB242

AB432 AC012 AC022 AC072

AC122 AC182 AC242 AC372

(72)発明者 鷹羽 武史

兵庫県神戸市北区日の峰4-7-16

AC422 AC442 AC582 AC642

AC662 AC712 AC792 AC852

(72)発明者 高田 洋樹

兵庫県神戸市灘区楠丘町6丁目5-20-  
304

AD072 AD092 AD132 AD152

AD211 AD252 AD492 AD512

BB41 CC05 CC12 CC23 CC38

(72)発明者 栗木 隆

大阪府吹田市五月が丘東8番C-512

DD21